

## 1. 調査目的等

小学校2年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

### 【中期目標・指標】

全国平均より+5ポイント      アンダーアチーバー5%以下

### 【短期目標・指標】

全国平均+3ポイント      アンダーアチーバー9%以下

## 3. 指標にむけての取組

- 指導方法の工夫(全学級における算数科の複数体制による指導の実施)
- NRTの結果を受けてのアシストシートの完全実施
- 補充学習(単元テスト70点未満児童の再テスト、複数体制による朝の活動の実施)
- 1年生からのきめ細やかな言語指導(MIMの実施)

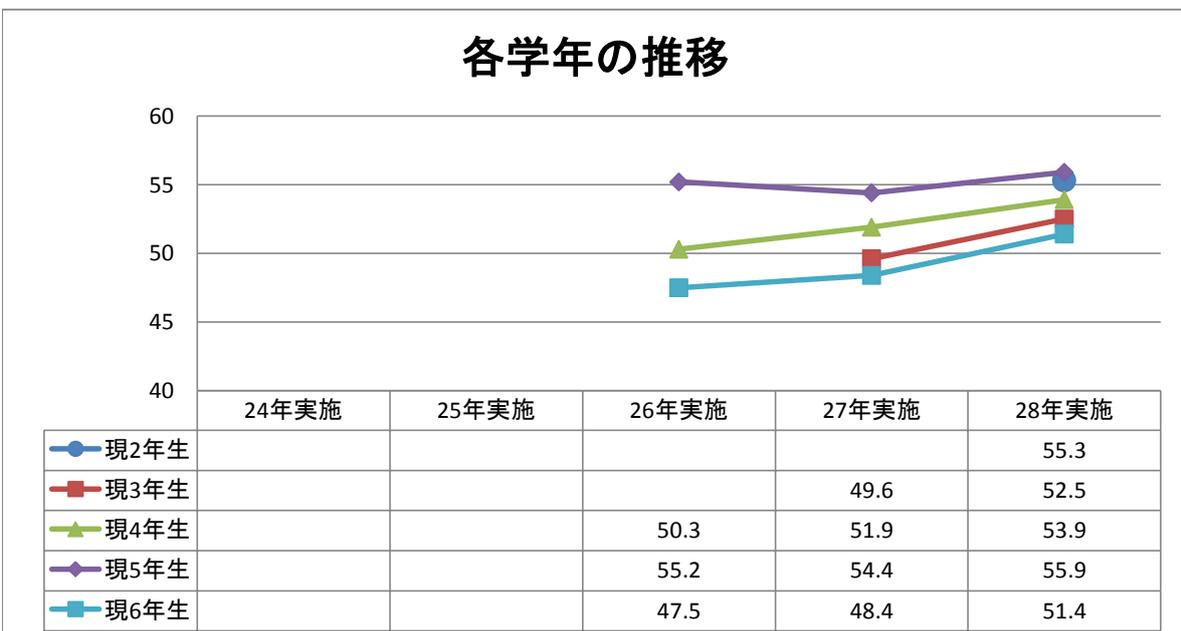
## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移

(標準偏差値50に対して)

年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
本校(A)			51.8	51.6	53.7
嘉麻市(B)			50.0	50.8	50.7
(A) - (B)			1.8	0.8	3.0
標準偏差値との差 (A) - (C)			1.8	1.6	3.7

## 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

- 全学年が国語科・算数科ともに昨年度より高くなっている。全職員による朝の活動の取り組みや算数科の複数体制などの日常的な授業改善の取り組みはもちろんだが、アシストシート、定着度テストの実施が理由の一つとして考えられる。
- 今年度の学力向上プラン全体計画では、アンダーアチーバーの児童の目標を9%以下としていたが、6%にまで減少させることができた。上にも述べた個に応じたきめ細やかな取り組みが成果を上げているものと考えられる。

## 6. 各学校における今後の取組

### 【日常の授業や学校生活における取り組み】

- 指導方法の工夫を今後も継続する。(算数科のすべての単元における、複数体制の実施)
- 読みの基礎・基本となる言語事項の取り組みをこれまで同様行っていく。  
国語・・・授業(前学年のふりかえり)、「言葉・漢字タイム」、家庭学習などで補充学習をしていく。  
算数・・・授業(前学年のふりかえり)、「算数タイム」、家庭学習などで補充学習をしていく。  
アシストシートの活用・・・夏休みチャレンジ学習 全領域→2学期後半(運動会後)
- 授業に書く活動・交流活動を多く取り入れる。(主題研究の日常化)
  - ・自分の考えを理由や根拠を示しながら書き交流する。
  - ・条件付きの作文を書く。
  - ・式の意味を書き、交流する。
  - ・学習のまとめを自分の言葉で書く。
- 講師招聘による、校内研究の実施及び全学級授業公開による授業改善の取り組みを行う。

### 【家庭との連携】

- NRTの結果の公表を行い、これまでの取り組みとその成果、今後の課題を共有し、家庭学習の習慣化についての協力を求めていく。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、以下の事項について支援する。
  - ・校内研修における授業参観指導を実施する。
  - ・効果のあった授業モデルを提示する。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「学力補充」を推進する。そのために、以下の事項について支援する。
  - ・全職員による補充の時間を充実させるための教材の選定や指導方法について指導助言する。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、以下の事項について支援する。
  - ・「家庭学習のすすめ」を活用した指導を徹底させるとともに、「家庭学習のすすめ」を児童・生徒の全家庭に配布し、家庭への啓発を行う。